令和３（２０２１）年度　御船町立高木小学校　学校便り

高き志【こころざし】

目指す学校像
地域とともにある
勢いのある学校

No. 30（R3. 12. 24発行）文責 校長 福田雅也

「有難い」…「ありがとう」を広げる

「あいさつ」　「あとしまつ」　「あんぜん」　「ありがとう」

これらは「四つのあ」と名づけており、本校が取り組んでいる「凡事徹底　～あたりまえをあたりまえに～」の具体的な取組事項として設定しているものです。児童昇降口や各教室にも掲示されているので、保護者の方々もご覧になったことがあるかと思います。

「あいさつ」は朝の登校時のあいさつを中心に取り組んでおり、地域の方々からもずいぶんよくなったと言っていただけるようになりました。「あとしまつ」はトイレや靴箱のスリッパや靴を揃えることを中心に取り組み、以前より改善が見られ、特に二階トイレのスリッパはいつも揃っている状況になりました。「あんぜん」は廊下を走らないことを中心に取り組んでおりますが、まだなかなか徹底できていない面があります。これらの三つは、中心に取り組むことが決まっているのですが「ありがとう」だけは、呼びかけだけで、具体的な取組事項を決めることができていません。

そこで今回は、「ありがとう」の言葉が学校や家庭にもっと広がることを願った記事を書くことにしました。

まず、感謝の言葉である「ありがとう」につながる「ありがたい」という言葉について少し考えてみました。感謝の意味で使う「ありがたい」は通常ひらがなを使います。しかし語源は「有難い」と漢字で表せる言葉です。枕草子での「ありがたきもの」は、「この世にあるのが難しいもの」という意味で使われています。そのため、有難いは「滅多にない、稀なこと」と文字通りの意味を表していた言葉だということがわかります。

時が流れて、この言葉は、宗教的に意味を持ち、貴重で得がたいものを得ている、特に仏の慈悲などを受けているという意味に解され、仏への感謝を示す言葉となりました。その後、この言葉が宗教的な場面以外でも使われるようになり、感謝を表す言葉として広く浸透したそうです。

このことから、「有難い」は「人の好意などに対し感謝する」というだけではなく「いただいたその好意は滅多にないことだ」という意味が含まれていると考えてよさそうです。「ありがとう」という言葉の意味の深さがよく分かります。

次に、今日の終業式の中で、私が子どもたちに話した内容を下にお伝えします。

> もうすぐ令和三年が終わります。今日は、皆さんの心の中にこの一年間お世話になった人への感謝の気持ちがあるかどうかを見つめてもらいたいと思います。…毎日、皆さんの食事のこと、健康のことを考え、楽しく学校へ通えるようにと心配りをしてくださっているお母さんやお父さん、おばあちゃんやおじいちゃんなど、家族の方に感謝の気持ちが持てていますか。気持ちは持てていたとしても、それを言葉にして伝えていますか。
>
> 冬休みは校長先生から皆さん全員に宿題を出します。それは、大晦日の日に日頃お世話になっている家族の方へ「一年間、ありがとうございました」と言葉にして伝えることです。大晦日の夕食の時でもいいです。年越しの時でもいいです。心を込めて大きな声ではっきりと言葉にして伝えてください。きっと、お家の方々はとても喜ばれるだろうし、あなたたち自身もとても嬉しい気もちになれるはずです。

最初に触れた「有難い」の話は少し難しいので、子どもたちには、まず行動をして体感してもらいたいと考えたのです。私のこの宿題には、「ありがとう」の気持ちを伝えることの大切さ、素晴らしさを体感し、「ありがとう」の言葉が学校や家庭で少しでも広がってくれればという願いが込められています。始業式の日には「宿題忘れ」がないかどうか、子どもたちに尋ねてみたいと思っています。「一年間、ありがとうございました」と子どもたちからお礼の言葉があった時は、しっかりと抱きしめ、褒めてあげてください。

この冬休み、各ご家庭で「ありがとう」の声がひびき、保護者の方々や子どもたちにとって素敵なお正月であることを願っております。

良いお年をお迎えください。